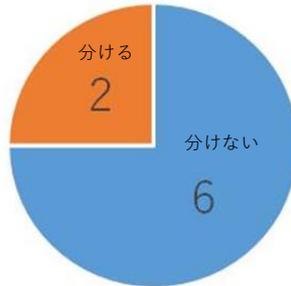


(仮称)介護予防ポイント制度の創設に向けたアンケート調査報告

1 地域活動への支援者と参加者の対象年齢を分けることについて



- 分けない(支援者・参加者ともに40歳から)
- 分ける(地域活動への支援者は40歳からポイント付与・参加者は65歳からポイント付与)

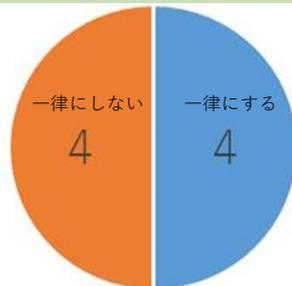
<分けない理由>

- 幅広い年代層の参加が期待でき、介護予防は若い時から必要

<分ける理由>

- 支援者・参加者の区別があって良いと思う
- 支援者20歳以上、参加者65歳以上と若い層の取り込みを行なっても良いのでは。(早い方が良い)

2 活動内容に応じたポイント設定について



- 支援者と参加者のポイントを一律にする
- 支援者と参加者のポイントを一律にしない

<一律にしない理由>

- 支援を受ける者と支援する者が同ポイントを楽しむことは理解出来ない
- 支援者の方が時間的、身体的負担が大きい。支援者活動への導入促進
- 支援者を増やす必要がある。
事業の企画、準備、当日のスタッフとしての役割
- 支援者の参加や興味を持つ人を増やす。支援者7:参加者3

3 ポイント付与の対象とする活動について



- サロンや認知症カフェなどの通いの場の支援者及び参加者
- 民生委員・児童委員の活動
- 地域住民による訪問型支えあい活動の活動者
- 市が認める研修への支援者及び参加者
- 介護施設等でのボランティア
- きんたくん健幸体操<転倒予防・いきいき百歳体操編>への参加
- 地域活動団体の役員会などの会合への参加

<その他の付与対象となる活動のアイデア>

- 地域のラジオ体操、ウォーキング、ハイキンググループ活動など
- 地区福祉委員会活動、老人クラブ、自治会、PTA活動など
- 市役所内で連携し、ポイントを付与する活動の拡充

4 活動毎のポイント付与数について、どちらに魅力を感じますか。(年間ポイント付与の上限有り)



- 一回のポイント付与数を高く設定することで、活動者のモチベーションを重視する
- 一回のポイント付与数を低く設定することで、活動回数を増やすことを重視する

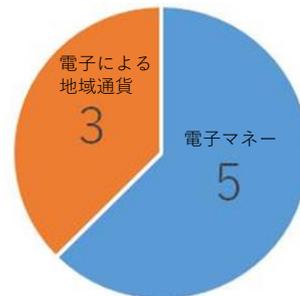
<一回のポイント付与数を高く設定する理由>

- 持続可能な制度にするため

<一回のポイント付与数を低く設定する理由>

- 参加することの楽しさを増やしてほしい
- 介護予防には継続性が必要なため
- 継続性を重視したい

5 ポイントの交換方法について



- 電子マネー (PayPay・楽天Pay・d払い等)
- 電子による地域通貨

<その他のアイデア>

- 参加者が分かりやすい交換方法
- 電子が苦手な人のため、紙ベースの地域通貨も必要
- 高いポイントの方がやりがいがある
- 支援者の参加や興味を持つ人を増やす。支援者7:参加者3

6 「資料2-5 広報」以外の広報活動についてのアイデア

- 公民館で実施されている健幸いきいき体操や健康測定会等のイベント時
- 自治会での回覧板、市広報掲示板にポスター掲示
- 市内のショッピングモール、スーパー等でのフリーペーパーの配布
- 高齢者のため、住民と対面で説明する機会が重要

7 その他、ご意見やご要望

- 実施する場合は継続性、分かりやすさが大事。そのための工夫、基盤整備が必要
- 令和6年6月地域団体への説明、川西市老人クラブ連合会にもお願いします